夢のうき橋

WA 7
(54)
263

源氏物語 54 夢のうき橋 WA7-263 54-001

国立国会図書館

やまにおはしてれいせさせ給ふやうに経仏
なとくやうせさせ給ふ又の日ハよかハに
おはしたれは僧都おとろきかしこまりきこえ
給ふ年ころ御いのりなとつけかたらひ給けれ
とことにいとしたしき事ハなかりけるを
このたひ一品乃宮の御心ちのほとにさふら
ひ給へるにすくれ給へるけむ物し給へりと
見給ひてよりこよなうたふとひ給ていますこし
ふかき契くはへ給てけれはおも〳〵し
うおはする殿のかくわさとおはしまし

事ともてさはきゝこえ給御物かたりなとこ
まやかにしておはすれは御ゆつけなとまいり
給すこし人々しつまりぬるにをのゝわたりに
しり給へるやとりやはへるとゝひ給へはしかはへり
いとことやうなる所になんなにかしか母なる
くちあまのはへるを京にはかはかしからぬすみかも
はへらぬうちにかくてこもり侍るあひたは
夜中あかつきにもあひとふらはんとおもひ
給へをきて侍りなと申給そのわたりには
たゝちかきころほひまて人おほくすみ侍ける

をいまはいとかすかにこそなりゆくめれなと
のたまひていますこしちかくゐよりてしのひやか
にいとうきたる心ちもし侍るまた尋きこ
えむにつけてはいかなりける事にかと心え
すおほされぬへきにかたかたはゝかられ侍
れとかの山さとにしるへき人のかくろへて侍る
やうにきゝ侍しをたしかにてこそはいかなる
さまにてなともらしきこえめなと思ひ給ふる
ほとに御てしになりていむ事なとさつけ給て
けりときゝ侍るはまことかまたとしもわか

源氏物語　54　夢のうき橋　WA7-263　54-003
国立国会図書館

くおやなともありし人なれはこゝにうしなひ
たるやうにかことかくる人なん侍をなとの給
そうつされはよたゝ人と見えさりし人のさま
そかしかくまてのたまふはかろ〱しくはおほさ
れさりける人にこそあめれとおもふにほう
しといひなから心もなくたちまちにかたちを
やつしてける事とむねつふれていらへきこえ
むやう思給へまはさるゝにたしかにきゝ給ふにこそ
あめるかはかり心え給てうかゝひたつね給
はんにかくれあるへき事にもあらすなか〱

あらかひかくさんにあひなかるへしなと
とはかり思えていかなる事にか侍りけんと
この月ころうち〱にあやしみ思給ふる人の
御事にやとてかしこに侍るあまとものはつ
せに願侍てまうてゝかへりけるみちにうち
の院といふ所にとゝまりて侍けるにはゝ
あまのらうけにはかにおこりていたくなん
わつらふとつけに人のまうてきたりしかは
まかりむかひたりしにまつあやしき事なむ
とさゝめきておやのしにかへるをはさし

源氏物語 54 夢のうき橋 WA7-263 54-004
国立国会図書館

きえてものあつかひけるさまにて侍しこの人
もなくなり給つるさまなからさすかにいきハ
かよひておはしけれハむかし物かたりにたま
とのにをきたりけん人のたとひを思ひて
さやうなる事にやとめつらしかり侍て弟子
はらの中にけんある物ともをよひよせ
つゝかはりかはりに加持せさせなんとし侍ける
なにかしはをしむへきよはひならねと母の
たひのそらにてやまひおもきをたすけて
念仏を心みたれすせさせんと仏を念し奉

りおもう給へしほとにその人のあり
さまくはしうもみ給へすなん侍し事の
けしきをおしはかり思給ふるに天狗こたまなとやう
の物のあさむきゐてたてまつりけるにや
となんうけ給はりしたすけて京にゐて
たてまつりて後も三月はかりハなき人に
てなん物し給けるをなにかしかいもうとこ
衛門のかみの北のかたにて侍りしかあまに
て侍るなんひとりもちて侍し女こをうしなひて
後月日ハおほくへたて侍れとかなしひ

えたえすなけき思給へ侍るにおなしとしのほとゝみ
ゆる人のかくかたちいとうるはしくきよらか
なるをみいてたてまつりてくわんおんの給へる
とよろこひ思ひてこの人いたつらになしたて
まつらしとまとひいられてなくなくいみしき
事ともを申されしかはのちになんかの
さかもとにみつからおり侍りてこしむなとつ
かうまつりしにやうやういき出て人となり給へ
りけれとなほこのりゐたるものゝ
身をはなれぬ心ちなんするこのあしき物のさまた

けをのかれて後のよを思ひなんなとかなしけ
にの給ふ事ともの侍りしかは法師にては
すゝめも申しつへきことにこそはとてまことにしゆ
けせしめたてまつりてしに侍るさらにしろ
しめすへきことゝはいかてかそらにさとり侍
らんめつらかなることのさまにもあるを世か
たりにはしはへりぬへかりしかときこえありて
わつらはしかるへき事にもこそとこの老
人ともとかく申てこの月ころおとなくて
侍りつるになんと申給へはさてあるに

源氏物語　54　夢のうき橋　WA7-263　54-006
国立国会図書館

かのきこてく御てらに出給つらことかり
れとむをよかき人と思ひてみし人をとかく御
こふありにこりてをかしき若のんち
志て何さましきれえはくみも何へとかきこえ
まれ給めるを僧都のたつし尊かりふかく
御てう契へきこえたりいと思ひ憂して浄土かく
まそ給へるかくおなし尊かりしはこの世
まはかき人とおなし御身にならすこと
あやしく御ちかきあるもちかくてつゝみかきれえおほ
ほとれならす世の給へ人をはなれてこのさきの

あちかゝり世みたまふまたにことさ家のおほえ
まおしけるをめいりかゝりやすかりそくまて
たゝ重給ひんまうもとひやしつてかまえる
むとかゝかくいふつきすちもやなりた人に
まかなとしりまきかお殊ことにてかうも
りのえかくて見えるをそあてい御かたしきさ
いとゝく御てあちあみかうへとさいともをもりをは
さうしとめはかねめてもあくさこうもにく
りいまとうけうまやおくさはくみそ
ひおかくて女しうりしきれえたて御は

源氏物語　54　夢のうき橋　WA7-263　54-007
国立国会図書館

さりつるになんつきうちめそりのとかまへい
さらしとおもひやくかんあつかる思ひ給ふる
里ゐけるをまらうと人かんいらしく恋しかり給ふ
なかとうくかんきいてよろしき事ともをま
れなる御事にはらゝくさせ給ひなるはい
めかりやう小物ゆもすこしもや侍らんかしこ
の中に此世の事そをうかゝひよそへてうかゝ
ひものゝすこし給へんしかくの給てさそ
いときゝこゝろへやはおはすとものゝ給
あと小松の御へりはあはぬてかの御あま思ふ

すくせつくいは思給ふるに人みるを蓬のや
なれかりつ事とうくゆるさにたゝりわたくせむと
かむ思ひ給ふるとのたまふりしまいてけれさ
思給へまかりらんとかへ母は猶そむき母君と
おほとされとりとひきをそ思ふほうしたは
あやしきんもうさぬとわかりやして母なれ
あとにふ物もいかてみえいて物うちをえぬへ
たゝさまわかつきれとわちさすくんしさ
さぬ何かり物む事思ふかもいさゝり給ふ
なさらての程あはれ其事そふを津ゝさせ給ふ

源氏物語 54 夢のうき橋 WA7-263 54-008
国立国会図書館

むさや給てなりしかなれと哀しくわう
あはきふいてこ坐むとさ後何ゆるあ乃ゝい
そこにて給りのほせうしれ何いゆくりふ出
ねくしうりなりしてはくゝもとりハりき
ちをたよけかりとなひいそ給くこれかんを
乃人れちうさゆりすかなとこれとにく物
あん流中を思ひとくうり給へそれ人とはすくて
そうさのつ孫我妹乃人かん行方とえうれ心
とおもひを給へと乃給へとかふりし出乃あうへ
まそうかうを流をえ侍かむとしれわうさ後を

くはしとよりやつ今は世わうちうさ
ようせ給てめりへりんとて何物をさせ給え
むまかふのれりて給らんとや給へそむ見う
ひ給て流こえぬさ思あら思ひ給を思かり給らん
よそうつりまれらてかえそくのうらまそ
今ゆそすくとかむいをわやしきいそけかりう
思より思ふ心さしかく給とこ縁の家れ心
めそけりてなりし出かさ男訓つとます
ふかいかしまうつかさ記ほうし小松を
ねうくつらひ給りけるかたみをのほう

くるめる事ゝいふをまたくかりあるのおほせ
見心よりあひかくくかしして思かけすさ
侍よいまさえ給ひねしとらすやとそひ侍
すくせとおもひやもまさらぬのれしにこ
とふつあてもさま侍りけんにていかてを
わせいし給ふこのことゝ見つるとききくとよ
もむ事えいてあやましく侍くみてそ心の
うちそひつまにおもり給らぬ物なましていと
ちかおもはゝ女にしそ見まほしきをこれつゝあへき
おなしなをてゐ返給ふらんにけりまゐか御返し

ことのはりしさまにおもひ給へし御たくひそよ侍
これおやのおもひなとしもさめしめ給らんそ
かりけん事ともゝ心やすくみえさまもし
よりふあてかゝるこの心をん思きてかり給
なき浮世をうふらかはさてにかくたうときこ
とかく夢にて給継みをもくれねをへかやと
思ひなよりけりめ人きねらいかそくて物
在るむしよもすから給なんか傍へなれて思ふ
ちひくりつり給よこのせゝこれはひそとそ
うれ此のそめてかめ給これ不つ事てまわか

源氏物語　54　夢のうき橋　WA7-263　54-010
国立国会図書館

かめりし給へとさこそ給つゝ女ゝうにてう
世給ふ紀くは山におちてわたりひ給へとよ
すくわなりやうにもおりそすし紀人ともあり
そりとこうさらひ給このよも心えぬとみ
とりて給ひふいつさうもしになしもおもせん
かれてもさてしらわかまきて志のひやうにそ
の給ふのはいかにふく志ろりおもあ紙いろ
山りむらひて御き給く事かく隠りなれは
さ給ちりへとむりし給ゆうかくさめまそか
かゆ形給一方にまいのは御うみえ尼ゝ給く侍

の難そらされんことにもくいぬと給ひ
さりしら哭わのくかわれ思ひとさ御とて
阿弥書らりとうし母いそあすりたかわもそ
若ふかわらむれせんかくいて玉はくそみゆ
生ひのわかさにひきかしそきつきりつか
過事り大ね愛おちしきて我あろしの
とまはうあすうといてよ紀わり事りこそ
あり法達大ね病といふの女二方生のれおと
こうやおちて法りん女いふ皇達て比世
さ仕く井、なうひま未うや泣かれに嘆きなかや

源氏物語 54 夢のうき橋 WA7-263 54-011
国立国会図書館

むかしの御心ほけはあさましきさまにて思ひ
かりしほとのしむの心ちつきをそまうせし
て年月の月日のすきけれはまことにおもむきしの
こゝろくるしう思ひよそれねはいまはかはりしを
つきしともとおもふけれとたゝあさましき世のみを
りて心にく物もいはてのみよりかよ
ひ人のさやうのことはりもえちゝきたちかり
君りの夜えこえ子紙御そ座へ人とはきは
あられと人めつかえて見えぬかのおれた夜すかう
り給くみなりてもさりまていさしぐそ給

むつましく思ひし人のおほくかくれにしかは二三
人かゝるところにてまゐらせつ給はゝ御ゆるし給
あるへき給ひし人はかなくなりにしよひよを給てあこ
うらも思ひいとゝかなしきいはひやいまは
よにある人と思ひそにしをのこしかなこ
そ物し給ひしつゝて紀人をまつかゝしせ宮に
をいそきたゝ給はゝもとにいまさらにいのかゝ
あらくおほつかなきはかなむつゝゐみへりまし
人と思ひ給へその御やの心思ひのいてはさ
にもなくさめまとひまきらはしいてゝゆかり

源氏物語　54　夢のうき橋　WA7-263　54-012
国立国会図書館

あまおとかきたまへるにはそうつからいおもかう
きこえ君のうちといふはりの事をし
おもひ志をさり志まう世給はなりてもてい
とつ事とかりひまうりふかくの給つては
られ給ふ御のおつかとこゝろしと思て
御きこりしふまゝてとめろ届りあ分共さり
事しこにもきさつとめて僧都の御もとより
まへ大将殿の御使そこ君やまうて給
うちまゝやうをまいらりまぞうち明らく
今は是てたて給くかんと姫君に給へし

給ひて川りちえさしき夢をおほせ
となふ何をすゝてきかう御かくしかりきの給へ
思これを御事をとめて君おもしろきてこゝろ
たくもそやふりてこをみてもの給つてもを
てうちあをめてりのくちえのかりまやしも
なしう物さりしよ久しかりうらまんと思ひ
給へく御まいりつて方すくてぬ給つかは我の
給しをよむかく御かしさの御事とはし
見しうとそ此世の心を思ひ給ひかもあてさき
とておもひより かくあしよりそうつのれ世り

源氏物語 54 夢のうき橋 WA7-263 54-013
国立国会図書館

そなたそさいはりなる人なんいふとゆひ出また
思ひ給へられ侍れはそれはさしもなけれ
きゝそふるもめとておなき世にとせられは
いそきにさまにしるしやかなるものゝえはらせを
ゆるさるゝをわゆるしなきゝさゝやき出
あはれにたれのおにつゐのそ給ふにてい
さ給ふふまりしをこそはその給への給ふしる
使にもあまきそうへかくし給ふまうとい
てされは道のひめ君は御きにおもくそ
君なき給へりしかとかくなふつき給ふ

りけりいそはしたるくおはしていかくおはくの
くさまひさいまて人よかかゝるみわれんせ給へ
次つきなからりの物を物し給ふ人なくたれし
といふうそなるうしねといひて僧都の御
めて見えはきこえて小大将殿の物し給ひて
御文を給ふなりは給ふにはしめておわり
しきうくりしを見ていためれおこし給かり
君の御中をも思ひさ給ひなくあやしく成出給
の中に本末しる給の事のありてハ御れ
まあそふ絶えこそれのそなんうけたまはりけり

源氏物語 54 夢のうき橋 WA7-263 54-014
国立国会図書館

おもひさ給ひてハせんすその御契あやまち
給はてあいしうのつみをはるかしきこえ給
て一日出家のくとくハはかりなき物なれハ
なほたのませ給へとなんことことにハみつからさ
ふらひて申侍らんかつかつこの小君
きこえ給ひなんとありけれとあやしくおほつかな
くわきあきらめ給へれと人ハ心もえすこ君ハ
たれにかおはすらんなほいと心うしいまさへ
くあなかちに隔させ給ふとせめらるれと
すこしと外さまにむきてみ給へハこの子ハ今ハ

と世を思ひなりし夕暮にもいとこひしと
思ひし人なりけり同所にてみしほとハ
いとさかなくあやにくにおこりてにくかりし
かと母のいとかなしくして宇治にも時々
ゐておはせしかハすこしおよすけしまゝにかた
みに思ひたりし童心を思ひ出るにも夢のやう
なりまつ母の有さまいと問はまほしく
外々の人のうへはをのつからやうやう聞
けとおやのおはすらんやうはほのかにもえきか
すかしとみるにいとかなしくて

かろくとか申あいておほしのふるくすゝめ
らみおろし給つるを思されし御こゝろに
こそおもひそめ侍しか御かたしくおもひし事を
のこんらうち位といふ事はそむきしといふ程か
にうつりは世をあらぬ物となおもはゝさんいり
めのうへは御心におもひけりてもとみえんを
そうしと思てもとこゝろにあらひくもふ
申さそかりともおもひかうせらんりうらへさう
物ないはれてゝんめきやうりうをんありさ御
わかうりかゝこゝと見給てゐんとさそう

流しむとうをたまひかくつみん物ともわすれ
さ御ふかゝりふ御かたやわかむいふもくすさ
流りされこそをやまいかうさうみえ思ひ出
ぬまき我かとせらわりし人の世の物なりり
もめりたまふらにかんちし何よりの事もやと
おもひいそらは御事わるかちせしそのく
ちと御文は御ひとつ御ほとくれとほゝ母
よろしくそおほしぬまゑいあり物思給
志人のいそくとおろかゝるを思ふ御ありし
ときゝてや世にめつらしそらんとされえらうさん

かゝなるれをうかりしきかりく給はなふされて
これわらえれかいちいさくてそんちすか
ま見いて思ひかこえれと今はうちまちゝ人まな
あはれにはれて重きむとかん思ひ給ひか
の人りし世よ物し給ふくされ難ありなかん
ぬいめん世は物思ひ給ふその僧都の
御消息人かとは、はかりふあらとえまえて
まうちとも世思給もうかくひかり事かり
右見えて聞えてもそくくとふ御返事の
えいとかいてはらかそう清乃れ心をも返し

とふ中にはあまりくやしく物し給つる
御さかのこひては紀もて給ひてん也後めり
くれなゐらしかめあかめ給くし紀ふれと
はゝ御さそかとかひさま紀て世よ志うをいは
くれらし御そそかてみかひめてせく
をやのたえに本丁あそて達さりこの御
はもきて給とくれさかえれそひらむ
をはくすまれ又給ゆ御をいうてりたて
まうらん僧都の御わたへいたしゝかう紙
くまはうすく給うまと御めそいへそ

源氏物語　54　夢のうき橋　WA7-263　54-017
国立国会図書館

そやあなうつくしなといひてこれ御ふみ御らんす
へき人もこゝに物せさせ給めりけそうの人な
むいかなることにかと心えかたく侍るをなを
のたまはせよおさなき御ほとなれとかゝる御しるへにたの
みきこえさせ給ふやうもあらんなといへと
思しへたてゝおほ〱しくもてなさせ
給ふにはなに事をかきこえ侍らんうとくおほ
しなりにけれはきこゆへき事も侍らす
たゝこの御文を人つてならてたてまつれとて
侍りつるいかてたてまつらんといへはいとことは

りなりなをいとかくうたてなおはせそさすか
にむくつけき御心にこそときこえうこかして
木丁のもとにおしよせたてまつりたれはあれ
にもあらてゐ給へるけはひこと人にはにぬ
心ちすれはそこもとによりてたてまつりつ御
かへりとくたまはりてまいりなんとかくうと〱
しきを心うしと思ひていそく尼君御
文をひきときてみせたてまつるありしなから
の御手にてかみのかなとれいのよつかぬま
てしみたりほのかに見てれいのものめてのさ

源氏物語　54　夢のうき橋　WA7-263　54-018
国立国会図書館

しまさん人いとめつらしと猶まつ
さらにきこえんかたなくさま／＼罪おもき
御心をハ僧都に思ひゆるしきこえて今ハ
いかてあさましかりし世の夢かたりをたに
といそかるゝ心の我なからもとかしき
になんまして人めハいかにとかきもやり給はす
法の師とたつぬる道をしるへにて思
はぬ山にふみまとふかな此人ハ見やわすれ給ひぬ
らんこゝにはゆくゑなき御かたみに見るもの
にてなんなとこまやかなりかくつふ／＼と

かき給へるさまのまきらはさんかたなきに
さりとてその人にもあらぬさまを思ひのほか
にみつけられきこえたらんほとのはしたなさ
なとを思ひみたれていとゝはれ／＼しからぬ心
ハいひやるへきかたもなしさすかにうちなき
てひれふし給へれはいと世つかぬ御ありさま
かなとみわつらひぬいかゝきこえんなとせめら
れて心ちのかきみたるやうにしはへるほとためら
ひて今きこえん昔のこと思ひいつれとさらに
おほゆることなくあやしういかなりける夢にか

源氏物語 54 夢のうき橋 WA7-263 54-019
国立国会図書館

御覧しりくゝのゝ心もえすなんすこし
しつまりてやこの御文なとも見しらるゝ事
もあらんけふはなほもてまゐり給ひね所たかへ
にもあらんにいとかたはらいたかるへしとてひ
ろけなからあま君にさしやり給へれはいとみ
くるしき御事かなあまりけしからぬは見た
てまつる人もつみさりところなかるへしなと
いひさはくもうたてきゝにくゝおほゆれはかほ
もひき入てふし給へりあるしそこの君
に物かたりすこしきこえてものゝけにやおはすら

んれいのさまにみえ給ふをりなくなやみわ
たり給て御かたちもことになり給へるをた
つねきこえ給人もあらはいとわつらはしかるへ
き事と見たてまつりなけき侍りしもしるく
いとかくあはれに心くるしき御事ともの侍
りけるを今なんいとかたしけなく思給ふる日比
もうちはへなやませ給ふめるをいとゝかゝる御事
ともにおほしみたるゝにやつねよりも物おほ
えさせ給はぬさまにてなんときこゆ所につけ
てをかしきあるしなとしたれとをさなき心ち

はそこはかとなくかくてようかむちりてみえさと
さてまうせ給はせ給ふ志なくふなたふしはか
え給らしぬむとをへ人々のみをまかせ給
わせよふあしなかいへえけめなとひてとくる
とうつかくれしらも物ものたまはねはかひなく
てあやしく思ひおはしけるまゝにあはれなりさるとにて
きこえさせ給へきなめり雲のはるかなるほとに
にもはへらぬを山かせふくともまたもかならす
たちよらせたまひなむかしといへとすゝろなる
ゐくらさむもあやしかるへけれはかへりなむとす

人しれすゆかしき御ありさまなともえみすなりぬ
るをおほつかなくくちをしくて心ゆかすなから
まいりぬいつしかとまちおはするにかく
たとたとしくてかへりきたれはすさましく
なかなかなりとおほさるゝ事さまさまにて人のかく
すゑたるにやあらむとわか御心のおもひよらぬ
くまなくおとしおき給へりしならひにとそ
本にはへめる

源氏物語　54　夢のうき橋　WA7-263　54-021
国立国会図書館

国立国会図書館

源氏物語 54 夢のうき橋 WA7-263

54-022

国立国会図書館

源氏物語　54　夢のうき橋　WA7-263　54-023
国立国会図書館